

導入科目

メディア表現基礎1(導入)

Media Creation Foundations 1 (Introduction)

担当: 赤松正行・平林真実・桑久保亮太		
単位: 2単位	履修対象: 1年	教室: C405ホール、C1202作業室、学外
学期: 前期(4月)	実施方法: 対面	

科目のねらい・特色

IAMASの特徴でもある横断的・学際的な知性と実践力を身につけるための最初の演習科目です。一人ひとりの「過去・現在・未来」を他の人に伝えます。いままで何をしてきたか、IAMASで何をしたいのか、そして将来は…。回想と現状と展望を表現し、また学生同士の意見交換や教員からの助言などを参考にして、社会との接続を意識しながら、今後の研究の在り方を探ります。これまでの自分をどう整理して言語化できるのか、また現在の自分をどのように捉えるのか、そして未来の自分をどのように構想できるのか。1週間を通して「自分はなぜIAMASに来たのか」という問いに答えることを目指します。

到達目標

IAMAS の多様な学生や教員がそれぞれどのような観点や目的を持って活動を行っているかを知り、今後のプロジェクト活動や自らの研究活動の幅を広げる一助となるようにします。また、成果物や活動内容を伝える際に、同じものであっても状況に応じて適切な形や方法があることを知ったうえで、新しい形の伝達の提案ができるようにします。効果的な分析方法や他者と対話するための共通言語を獲得し、整理し伝えるための表現能力や伝達能力の向上を目標とします。

講義形態

調査、講義、制作、発表

講義計画・項目

- 1日目 概要説明、学外調査
- 2日目 学外調査報告、事例紹介(表現手法)、課題試作
- 3日目 試作発表、講義:事例紹介(伝達手法)、課題制作
- 4日目 課題制作

- 5日目 課題発表、講評、報告書作成

教科書・参考書等

なし

評価方法

種別	割合	備考
課題	30%	プレゼンテーションなどの能力
日常点	70%	授業への積極的な参加度

メディア表現基礎2(理解)

Media Creation Foundations 2 (Understanding)

担当: 吉田茂樹・全教員		
単位: 2単位	履修対象: 1年	教室: ホールA(C404)
学期: 前期(4月)	実施方法: 対面	

科目のねらい・特色

今後の研究を進めるにあたって高度なメディア表現に必要な知識や技能を身に付けるために、本学を構成する多分野の多様な専任教員全員の実践的かつ専門的な研究や活動の内容および、担当する授業やプロジェクト等について紹介します。講義の中で特徴的な内容を紹介するとともに、質疑応答の時間を設けて不明な点の解消を目指します。それらの内容を通じて専門科目の選定だけではなく、プロジェクトや主・副指導教員の選定の参考となる情報の提供を目指します。

また、本学におけるプロジェクト演習や種々の活動においては、異なる分野の教員や学生がコラボレーションをすることで新たな表現を模索することが行われており、これまでの事例の紹介を含めて、異なる分野の人達とコラボレーションをする際の心構えや考え方などについても紹介します。コラボレーションについては、受講学生も交えたディスカッションを通じてさらなる事例やより多くの考え方に触れる機会を提供します。

到達目標

本学の専任教員の各専門分野や現在の研究、活動について理解し、その上で本学で開講される専門科目やプロジェクト実習等の授業の概要を知ることで、今後各自の研究活動を進めるにあたっての授業選択や、主・副指導教員の選択の参考にすることを目標とします。

また、コラボレーションの事例や考え方などを知ることで、自分の専門分野以外のことにも興味を持ち、積極的に交流することで新たなメディア表現を模索する基礎を学ぶことも求められます。

講義形態

講義・議論

講義計画・項目

- 4月15日午前(1,2限、2コマ):
 - グループ1(異なる分野の教員3名)による研究・活動と授業の紹介

- グループ1(異なる分野の教員3名)によるコラボレーションの事例紹介と議論
- 4月15日午後(3,4限、2コマ):
 - グループ2(異なる分野の教員3名)による研究・活動と授業の紹介
 - グループ2(異なる分野の教員3名)によるコラボレーションの事例紹介と議論
- 4月15日午後(5限、1コマ):
 - IAMASでの研究活動に関する関連情報の紹介
- 4月16日午前(1,2限、2コマ):
 - グループ3(異なる分野の教員3名)による研究・活動と授業の紹介
 - グループ3(異なる分野の教員3名)によるコラボレーションの事例紹介と議論
- 4月16日午後(3,4限、2コマ):
 - グループ4(異なる分野の教員3名)による研究・活動と授業の紹介
 - グループ4(異なる分野の教員3名)によるコラボレーションの事例紹介と議論
- 4月17日午前(1,2限、2コマ):
 - グループ5(異なる分野の教員3名)による研究・活動と授業の紹介
 - グループ5(異なる分野の教員3名)によるコラボレーションの事例紹介と議論
- 4月17日午後(3,4限、2コマ):
 - グループ6(異なる分野の教員2名)による研究・活動と授業の紹介
 - グループ6(異なる分野の教員2名)によるコラボレーションの事例紹介と議論
- 4月18日午後(1,2限、2コマ):
 - グループ7(異なる分野の教員2名)による研究・活動と授業の紹介
 - グループ7(異なる分野の教員2名)によるコラボレーションの事例紹介と議論

教科書・参考書等

教科書はなし。参考書等は各教員の活動紹介の中で必要に応じて紹介する。

評価方法

種別	割合	備考
課題	30%	ディスカッション等への取り組み
日常点	70%	授業への積極的な参加度

メディア表現基礎3(制作)

Media Creation Foundations 3 (Creation)

担当: 前林明次・吉田茂樹・ホアン・マヌエル・カストロ		
単位: 2単位	履修対象: 1年	教室: ホールA(C404)
学期: 前期(4月)	実施方法: 対面とオンライン複合	

科目のねらい・特色

この授業では、概念的な大きな枠組みとして「ブリコラージュ」という考え方や制作のあり方を設定した上で、多様な分野からなる学生、教員がある課題に対して共同して取り組んでいきます。

議論の出発点としてクロード・レヴィ＝ストロースの「ブリコラージュ」を取り上げ、現代におけるヒトとモノ、モノとイメージ、モノと情報、情報とマテリアルとの関係性や、さらには環境と生存、社会の持続可能性にまで視野を広げ、「なぜ今、ブリコラージュ的な視点が必要なのか」について議論します。

制作において必要とされるのは、「見立ての力」なのかも知れません。あるいは「間に合わせ」であっても伝えたいことを「伝える力」なのかも知れません。一人で考え抜くことももちろん重要ですが、他者と共同作業し、違う視点を取り込みながら、時に意見の違いを乗り越えていく力も必要となるでしょう。創造性、適応性、臨機応変さを重視するブリコラージュの概念は、現代社会におけるコラボレーションの重要性を理解するための貴重なレンズとなるはずです。

到達目標

多分野からなる教員と学生がひとつの課題を共有し、「制作の方法」自体をメタ的な視点から問い直します。講義とディスカッション、共同作業による演習を通じて、今後の制作や研究のためのあらたな視座を得ることを目指します。

講義形態

講義・演習

講義計画・項目

- 4月22日
 - 授業の概要説明
 - 教員からの課題設定・目的の説明
 - 質疑応答とディスカッション
 - グループ、あるいは個人による課題への取り組み

- 4月23日
 - 制作とディスカッション1
- 4月24日
 - 制作とディスカッション2
- 4月25日
 - まとめと発表

評価方法

種別	割合	備考
課題	40%	課題への取り組み
日常点	40%	積極性 協働性
レポート	20%	

メディア表現基礎4(計画)

Media Creation Foundations 4 (Planning)

担当: 松井茂・小林昌廣・山田晃嗣・大久保美紀		
単位: 2単位	履修対象: 1年	教室: ホールA(C404)他
学期: 前期(5月)	実施方法: 対面	

科目のねらい・特色

この科目は、メディア表現研究科における研究の意義を確認すると共に、資料調査、論文執筆の初歩的な手がかりを得る機会です。ここまでのメディア表現基礎を踏まえ、受験時に提出した研究計画書を見直し、動機、課題、仮説、主張、計画を確認します。表現分野や学術領域を横断する際の論理的思考(作法)を押さえ、他者(他分野、多領域の専門家)と議論ができる計画書に書き直す実習となります。

この授業でリライトする計画書は、特別面談(5月)、主指導教員申請(6月)の際に活用することを目的としています。教員のみならず、学生間での作品や研究における議論を円滑に進めることを身につける機会にもしたいと考えています。

到達目標

メディア表現基礎1、2、3を踏まえ、入学前に準備した研究計画を再検討し、アップデートします。研究をすすめる上での、言語化、調査方法、プレゼンテーションに関する基礎的な実践の機会となります。

講義形態

講義、演習、発表(学内)、レポート等

講義計画・項目

- 5月7日(火)
 - 1限「ガイダンス&研究計画書の書き方」(松井)／2限「研究計画書の書き方」(大久保)／3・4限「論文調査」(山田)
- 5月8日(水)
 - 1・2限「文面構成」(小林)／3限「図書館の見学」／4限「研究計画書のリライト」(作業)
- 5月10日(金)
 - 1・2限「口頭発表+講評1」／3・4限「研究計画書のリライト」(作業)

- 5月13日(月)
 - 1・2限「口頭発表＋講評2」／3限「振り返り」

教科書・参考書等

必要に応じて随時配付、指定します。

評価方法

種別	割合	備考
課題	30%	課題への取り組みを評価します
日常点	70%	授業への参加の積極性